

北九州ゾンタクラブ 女性の地位向上を目指して

木下 彰子

北九州市若松区出身。25歳で米国に留学。フリーランスで、通訳や翻訳の仕事をしてきたが、1989年（平成元年）「アウルズ」を設立した。

福島 大亮

北九州市戸畑区出身。高校を卒業後、米国に留学。帰国後、アウルズに入社。2年で退社し、海外で働く。2015年7月、アウルズに再び入社した。



左：木下さん 中央：吉村はるか 右：福島さん

北九州市小倉北区の「アウルズ」は、国際会議の運営や通訳、語学教育などを手がける会社です。会長の木下彰子さんとIT戦略室長の福島大亮さんは、女性の地位向上を目指す団体「北九州ゾンタクラブ」で活躍しておられます。自民党第10区支部長の吉村悠が会社を訪問しました。（文中敬称略）

吉村 ゾンタの活動について教えてください。

木下 ゾンタはアメリカの先住民の言葉で、「誠実、信頼を意味します。発足は1919年です。米国・ニューヨーク州バッファロー市で、職業をもつ女性たちのグループが、女性の地位向上と社会奉仕を目的に始めました。独自の奨学金制度によって、世界中でリーダーとして活躍する女性も支援してきました。国連と協働のプロジェクトも4つ持っています。シカゴに本部があり、世界には約1200のクラブがあります。約3万人を超え

る加入者がいます。

北九州ゾンタクラブは1991年に創立されました。私はその創立メンバーの1人です。会長を務めたのは1914年、16年。そのあと、国際ゾンタ26地区（日本）のガバナー、国際ゾンタの理事もしました。

福島 北九州ゾンタクラブへの入会は2018年です。会員は22人で、うち4人が男性です。2024年からは会長をしています。初めての男性会長です。

会では、「ゾンタは女性に対する暴力を許しません」（ZONTA SAYS NO）というモットーを掲げ、女性に対する差別をなくすさまざまな取り組みをしています。勉強会の開催や募金活動、国際女性デー（3月8日）に合わせた催しなどです。寄せられた募金は国際ゾンタに贈っています。北九州のシンボル、小倉城を毎年、オレンジ色でライトアップさせて

います。オレンジ色は世界中で女性に対する暴力反対を象徴する色です。

吉村 世界経済フォーラム（WEF）は男女格差の現状を評価した報告書を発表しています。格差を示すジェンダーギャップ指数は2025年版で、日本は148か国中118位になっています。とりわけ、政治・経済分野の格差が目立ちます。

2011年（平成23年）から2024年（令和6年）まで県議（4期）を務めました。現在、福岡県議会（定数87）の女性議員は15人です。最大会派の自民党は41人いますが、女性議員は、私の後継候補として、3月の県議補選（小倉南区）で、初当選した佐藤楓議員だけです。女性の立候補を後押しするため、福岡県では政治家へのハラスメント防止条例が2020年に制定されました。その際、提案政策条例を検討の座長として、意見の取りまとめもしましたが、

女性議員が一人もいない自治体があるのは残念なことです。

木下 政治の世界では、とりわけ男性中心の政策が多いように思います。子ども食堂が最近、何かと話題になっていますが、背景には1人で子どもを育てている母親が増えていくことがあります。男女間の賃金格差が、シングルマザーの貧困を生み、子供の貧困につながります。男女同一労働同一賃金を一刻も早く実現する必要があります。

福島 日本のゾンタクラブは今期、「次世代につなぐ」ということを重視しています。地元の西南女学院大学（小倉北区）のゴールデンZクラブを支援しています。ゴールデンZクラブとは、国際ゾンタの傘下にある大学生組織です。カンボジアに対する教育支援などを行っています。

吉村 国際交流に水を差す動きもありますね。

木下 少子高齢化が進んでいることを考えると、外国人労働者の受け入れは不可避でしょう。それだけに、立場の弱い人たち、声を上げられない人たちの支援は欠かせないのです。

吉村 貴重なお話ありがとうございました。大変、勉強になりました。

吉村はるか訪問記

【発行者】
自民党福岡県第十選挙区支部

吉村はるか
後援会事務所

〒802-0802
北九州市小倉南区城野4-1-30
TEL:093-951-5757
FAX:093-951-5758

門司事務所

〒800-0031
北九州市門司区高田1-18-1
若菜ビル
TEL 093-342-7170

活動発信中!

